

TOPIX

修了生が語る ぶぎん経営幹部養成塾の魅力

ぶぎん地域経済研究所では、次代を切り拓く経営幹部の育成を目的に、2011年度から毎年「ぶぎん経営幹部養成塾」（以下、養成塾）を開講（共催：武蔵野銀行）しており、これまでに延べ400名にのぼる修了生を輩出しています。

今年度は「次世代業績基盤確立に向けてのリレーションシップ」をテーマに、昨年度に続いて、仮想企業の経営幹部となり、事業計画を立案し他社と競い合う企業戦略シミュレーションを採り入れるなど、実践しながらに経営手法を幅広く学ぶ予定です。また、グループディスカッションや1泊2日での合宿研修、交流会などを通じ、さまざまな考え方や情報を吸収できる全7回にわたるカリキュラムを用意しています。

そこで今号では、前号に引き続き、昨年度の養成塾を修了された方にぶぎん経営幹部養成塾の魅力についてお話を伺いました。第2回として、株式会社熊谷青果市場の飛田さんの声をご紹介します。



「2025年度ぶぎん経営幹部養成塾」は2025年10月開講予定です。

2024年度 修了生

株式会社 熊谷青果市場

常務取締役 飛田 環 氏



——養成塾に参加する上での不安や心配な点などはありましたか

初回の講義を迎える前までは難しいことを教わるというイメージがあり、内容についていけるのか、自分に理解できるのかといった不安と緊張感は多少ありました。ただ実際に初回に参加してみて、他の参加者の方たちと挨拶を交わすなかで、皆さん自分と同じような気持ちで参加されていることが分かり、そうした不安もなくなっていきました。いろいろな幅広い業種の幅広い年代の方が男女を問わず参加されていたので、とても良い刺激になり、有意義な時間を過ごすことができました。

——全体を通してどのようなプログラムが印象に残っていますか

第2回、第3回の2日間は合宿形式で行われたのですが、その際に行われた企業戦略シミュレーションというオンラインゲームを通じた経営体験プログラムがとくに印象に残っています。数名ずつのグループに分かれ、他のグループと競い合いながら仮想会社の成長を目指すというプログラムで、私のグループでは私が経営者役を務めました。社員役の他の皆さんのサポートのおかげで増収増益を達成することができたのですが、なかには経営に失敗して倒産してしまったグループもあり、とても勉強になりました。ゲームを通じて数字の重要性を学ぶことができ、開発、営業、資金調達、組織戦略など多岐にわたる意思決定を重ねながら改めて経営の難しさを体験することができたと思います。

——ご苦労された点や難しかった点がありましたか

初回の講義で学んだ財務諸表や経理関連の数字については、これまで営業一筋で働いてきて苦手意識があったこともあり、少し難しく感じましたが、とても勉強になりました。数字を単純に追うだけではなく、キャッシュフローの捉え方や財務諸表の押さえておく

べきポイントなどを分かりやすく解説してもらえたことで、経営におけるおカネの流れを理論的、体系的に理解することができました。シミュレーションゲームでの会社経営でも、必要なときに必要な資金を確保できないと会社をうまく成長させることができないということを体験し、資金繰りの大事さについて理解を深めることができました。

——他の参加者から得られた気づきや学びなどはありましたか

異業種の幅広い年代の方々と交流できる機会を得られたことは、講師からの講義だけでは得られない、さまざまな業界の知見や事例に触れることができ、貴重な時間となりました。第4回の講義では、グループ内で互いに自社についてプレゼンし合う時間があり、そのなかで弊社の業務効率化につながるような新たな視点からのヒントやアドバイスをもらい、参考になりました。グループワークやディスカッションを通じて、自分とは異なる視点や観点からの学びを得ることができたので、視野を広げることに繋がったと感じています。

——養成塾での学びを今後どのように活かしていきたいですか

養成塾では必要なことを楽しく学ぶことができ、なかでも人の大切さについて再認識することができたと思います。シミュレーションゲームでの会社経営のなかでも、従業員の営業力や生産性の向上が企業の成長につながり、企業の魅力を決定するということを体験しました。少子高齢化を背景に年々人手不足感が高まるなか、他の参加者の方と話をしているだけでも、人材面に課題を感じていることは共通していました。弊社でも以前から社長が人の大切さについてはよく口にしていて、人の配置や教育面については重要視していますので、養成塾で教えていただいたことを活かしながら、より良い職場、会社づくりにつなげていければと考えています。